

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム ゆうゆう済民 岩手棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100139		
法人名	流通商事株式会社		
事業所名	グループホーム ゆうゆう済民 岩手棟		
所在地	〒028-4132 盛岡市済民字泉田178番地		
自己評価作成日	令和4年10月12日	評価結果市町村受理日	令和4年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームの役割の理解を深めながら、その人らしい暮らしが送れるように自立支援を大切にしてチームで支援をしている。法人として3事業所あり、毎月所長会議を開いているが、今回から、各事業所のユニットリーダーも3カ月に1回程度参加し、事業所の現状を話し合い、各ユニットの現状に合わせた課題を毎月取り組み改善に努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点7(評価機関記入)】

事業所近くに小学校や学童保育所があり、新興住宅地に囲まれた閑静な環境にある。事業所は利用者の家であり、職員は利用者の家にお邪魔してお手伝いをしているという考え方に立ち、利用者を主体とし、利用者のペースに合わせた行動を基本としている。声掛けも利用者を選択権のある声掛けになるようにし、食事も決まった献立はなく、利用者と一緒に買い物に行き、利用者が食べたい食材で献立を決めている。調理や片付けも利用者が行い、職員は足りない部分のお手伝いをしている。入浴や排泄も同様であり、常に利用者の思いに重点を置いた支援が行われるよう対応している。普段の会話や態度の中から一人一人の思いをくみ取り、それを職員間で共有し、実現のために何が必要かをチームで話し合い、重要なものは介護計画に反映させるなど、利用者本位のサービスが行われ、理念である「ゆうゆうと笑顔あふれる暮らし」に近づこう日々のサービスに努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年11月24日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念方針を掲げ、それを目標にしなが、現状の把握に努め、毎月課題改善に努めている。	設立時に定めた理念であり、一度変更したことがあったが、「ゆうゆうと笑顔あふれる暮らし」を実現することを目指してここまで来たことから、やはり理念はこれという声上がり、元に戻した経緯がある。毎月の全体会議では全員で復唱しており、この理念に近づくよう課題を掲げ日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍でもあり、地域行事やホームでの行事を減ってはいるが、ご近所さんから手作りキーホルダーやひな人形を頂き、地域に根付いてきているのを感じる。	コロナ禍以前は、近隣の小学校の子ども達がホームに来て交流したり、児童館の夏祭りにホームで参加したりしていたが、現在は中断している。そんな中でも利用者が徘徊しているのを近所の人が見かけ教えてくれたりとホームの存在が地域で身近なものとなっている。	現時点ではコロナ禍で難しい面もあると思われませんが、今後、地域とのつながりをより深めていくため、運営推進会議に自治会長を通してご近所の方に交代で参加してもらったり、比較的近くにある浜民中学校の先生や生徒さんと新たな交流を築くなど、事業所の積極的な働き掛けで地域とのつながりを更に強いものにしていくことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議(書面開催)や地域ケア会議に参加し、事業所の取り組みをお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度第3回まで運営推進会議を開催しているが、コロナ禍もあり、全て書面開催となっているが、現状の報告を行い、ご意見を頂いている。	今年度はコロナ禍のためこれまで3回とも書面開催となっている。自治会長、民生委員、地域包括支援センター、市社協が中心メンバーとなり、利用者や家族が出席することもあった。会議では、特にヒヤリハット・事故報告については原因解明や今後の対策まで詳細に報告されており、メンバーから積極的に意見が寄せられ、サービス改善につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて、相談させて頂き、意見や助言を頂いている。	ほとんどの手続きは本庁舎で行っており、頻繁に顔出しできているわけではないが、その都度、いろいろ相談に応じてもらっており、どうしても情報不足になりがちな部分はメールのやりとりによりカバーしている。地域包括支援センターとは入居状況など日頃から情報交換を行うなど連絡を密にしている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 岩手棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の身体拘束適正化委員会を実施し、現状に対して話し合い、取り組み内容を各職員へ周知し改善に向けて取り組んでいる。年2回の内部研修の実施。施錠は夜間のみとなっている。	年4回の身体拘束適正化委員会(メンバーは管理者、ユニットリーダー、介護計画策定担当者と交代制でそれぞれのユニットの職員の計6名)と年2回の内部研修を開催し、2カ月に1度は具体的な事例を検討し、学ぶ機会を設けている。特に「～してください」など何気なく使いがちなスピーチロックには注意している。なお、初任者に対しては採用時研修の中で学んでもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	委員会を通して、虐待や不適切なケアに繋がるような内容があれば、改善に向けて話し合いを行い、職員へ周知し改善に取り組んでいる。勉強会も実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今回権利擁護に関して、研修に参加できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門用語や難しい言葉は使わず、かみ砕きながら事業所の取り組みや方針を説明させて頂きながら、ご家族さんにお話を伺いながら、出来る限り理解納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から利用者さんとの関わり大切にしながら、出来る事はさせて頂いている。今年は面会制限も長く、利用者さんへ会えない事もあり、ご家族さんが来られた際には、思いを伺いながら、出来る事はさせて頂いている。	利用者の要望は日によって変わることもあり、普段の会話の中から利用者の思いを汲み取り、できる限り対応するようにしている。また、家族には「ゆうゆうだより」で毎月の利用者の様子を個別に知らせており、面会を再開していることからその際に思いを伺ったり、面会記録に記載された要望があれば、できることは運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から話す機会を設け、キャリアパス3か月に1回の個人面談を行い、事業所として、必要な内容であれば検討している。	3か月に1度の個別面談で意見が出されることもあるが、日常において、職員から意見を出してくることが多い。ここに手すりがあれば安心だ、ソファアが低く立ち上がりにくいなどの改善提案があり、その度に具体化している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今回は職員のコロナ感染者や濃厚接触があり、一時期大変な中での勤務もありましたが、サービス残業はしない。残業があれば記入するよう努めている。記入漏れがあれば、管理者から聞くようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リーダーを中心にユニットの現状に合わせ、課題を設けながら、日々の取り組みを行っている。その中で、チームとして目標を持ちながら、各職員の能力に合わせた目標助言を行っている。必要がある際には、個人に勉強会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は、外部研修に積極的に参加し、他の事業者の方とも交流・意見交換を行いながら、ホームとしてのサービス向上、職員の意欲向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望、不安や困っていることがあれば、記録に残し、職員間で共有しチームとして、ご本人の思いに寄り添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや契約の際、ご家族さんの話を聴きながら、事業所として、出来る限り要望に応えられるよう努めている。又、普段から、お話をさせて頂きながら、都度聞くよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々で、必要であればお話を伺いながら、対応させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの生活の場であり、利用者さん主体である事を普段から意識し、ご本人に伺いながら、お手伝いさせて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナ禍もあり、面会は控えているが、希望があれば、玄関先で数分あって頂いている。又、普段から電話での会話もされている。月一回ゆうゆうだよりにて、様子をお伝えさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍もあり、制限が多い中ではあるが、希望があればご自分の田んぼや家へ行かせて頂く事がある。	コロナ禍にあるほか、利用者の知人も高齢化しており、馴染みの人と会える機会は減っているが、利用者の要望により本人が耕作していた田んぼに連れて行ったり、自宅と一緒に中へ上がって一休みさせるなどの支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット間関係なく、ご本人が居たい所で過ごして頂いている。又、職員は利用者さん同士のきっかけを作り、余計なお手伝いはしないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡があれば助言をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話から、汲み取るよう努めているが、その時々で話す内容が変わる事もある為、チーム間で共有しながら、本質の把握に努めている。	日常の会話の中から思いをくみ取るようにし、各利用者の生活記録に記載して、職員間で共有している。重要と思われるものは3ヵ月毎の振り返りシートにまとめ、必要に応じ介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段からの関わりを大切にしながら、会話の中から新たな気付きもあり、取り入れる事もある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者さんの思いも変化がある為、具体的な内容として、ご本人や周りの様子はどうか、記録しチーム間で共有している。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ゆうゆう浜民 岩手棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者だけではなく、関わるチーム全員に書いてもらい、現状に合わせた計画書を作成している。	入居時の暫定計画をもとに、職員全員が利用者の事業所での生活ぶりを見て感じたことを記録し、それをもとに利用者の「思い」に重点を置き、そのために何をすべきかを本計画としてまとめている。介護計画は3ヵ月ごとに更新を行うが、日常生活場面での小さな変化が重要なことに繋がるケースもあることから、必要に応じて職員が参加するカンファレンスを行い、職員の気づきをもとにして見直しを行うようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に記入し、気づきがあれば日誌の方へ記入し、チーム全体で共有、実践に繋げている。結果内容を元に介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態や周りの環境でも、その時々で変化は出る為、思い込みを持つことなく、柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍もあり、地域資源の活用は出来ていないのが現状。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族さんと、病院とも話し合いを行いながら、ご本人の状況に合わせた医療が受けられるように努めている。	入居前からの継続しての、かかりつけ医受診は5名で通院は家族同行を基本とし、家族が対応できないときは職員が同行している。利用者の身体機能が低下してきた場合などはかかりつけ医や家族とも相談し、訪問診療に切り替えるケースもある。訪問診療は6名いて、月1、2回受診し、訪問看護師は週1回来訪している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護があり、ご本人の様子をお伝えし、助言を頂いている。必要に応じて指示を頂き、受診される事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合は、出来る限り早めに退院が出来る様、病院と連絡を取らせて頂いている。今回、入院先でコロナ感染者が出てしまい、退院が延びてしまうケースがあった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の段階で家族さんからは、話を伺っている。その都度体調に変化があれば、ご家族さんと話す機会をもっている。現状として、訪問看護先と契約は行わせて頂いたが、つなぎとして考えて欲しいとの事で、看取りまでは難しい状況である。	現時点では、医療連携体制上、看取りは難しい状態にある。利用者や家族にはホームでの看取りを希望する方もおり、看取りを経験しているスタッフもいるものの、医療行為を必要とする状態になった場合には、入院を選択する旨を伝えている。なお、実際の場면을様々想定しながら、それぞれの場面でどのような対応になるのか、医療側と家族と事業所とで検討・確認を重ねている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習を行い、急変時のマニュアルを作成し実践している。又、分からない事があれば、訪問看護時に聞き、実践できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施し、改善点があれば都度修正し、次に繋げている。現在は、コロナ禍もあり、外部の方々は参加されず、ホーム内のみとなっている。	年2回の避難訓練を実施し、夜間想定での訓練や消防署立ち合いの下での訓練なども行っている。今年度11月に行った訓練では、出火場所を洗濯室にしたところ、声が届かないという課題が分かり、火災発見時の行動パターンの改善を行った。2回目は来年3月を予定し、職員が移動困難な利用者になり、一つ一つの行動に問題がないかの気づきを得る訓練を計画している。	今回の訓練で課題とされた事項に対して、運営推進会議で委員から意見や提言などをいただき、今後に生かしていくことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	サービスを提供させて頂いていると捉えながら、普段から接遇として課題にも取り組みを行い実践している。	居室に入るときも不在の場合は、本人を探して了解を得てから入り、終わったらまた声をかける。あくまでも利用者が主体であり、利用者のペースに合わせた行動を基本としている。声掛けは「してください」ではなく、「してもらっていいですか」「しなくて大丈夫ですか」など利用者を選択権がある声掛けになるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が考え、自己決定できるような声掛けを出来る様務めている。すべての職員とはいかないが、改善傾向となっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員主体とならないよう、利用者さん一人一人の生活のペースに合わせ、ご本人に伺いながら、自由に過ごしたい場所で生活されている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧される方もおり、その人らしく思いに寄り添わせて頂いている。季節感がない服装や着かたが分からなくなる事もある為、ご本人に配慮しながら、声掛けやお手伝いをさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍もあり利用者さんと買い物へ行けない時期もあったが、現在は一緒に買い物へ行かれ、食べたい物を選ばれている。利用者さんへ食べたい物を伺いながら、利用者さん主体となり、料理が出来る様、お手伝いさせて頂いている。	利用者と一緒に買い物に出かけ、何を食べたいか聞きながら食材を選び、献立が決まる。調理も利用者が作るのを一緒にお手伝いするという考えをとっている。利用者の半数近くが調理に参加できるほか、現場監督を担当する方もいれば、片付けやテーブル拭きの担当など、利用者自身が出来る範囲で参加して自分の食事を自分で作るよう進めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理までは行っていないが、糖尿病がある方には、先生に伺いながら、量を調整している。水分が足りない方には、ご本人の好みの物をお勧めしながら、摂って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声は掛けさせて頂くが、希望されない方もいる。定期的に歯科受診され、指示を伺いながら対応している。必要に応じて、お手伝いさせて頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	分からなくなっている方もいるので、時間を見ながら、それとなく声を掛けさせて頂きトイレへ行かれる。ご本人の状態を見ながら、日中は普通の下着、夜間のみリハビリパンツやパット、ポータブルトイレを使用される方もいる。	約8割の方々には失敗はあっても自分でトイレに行くことができる。毎日の排泄パターンは生活記録に記載しており、時間を見て、職員が誘導介助し、できるだけ失敗が少なくなり自立に近づけるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご本人のお通じの把握に努め、出づらくなっている場合は、乳製品をお勧めしたり、希望に添いながら、散歩をされる方もいる。それでも難しい場合は、主治医に相談させて頂き、下剤の調整もさせて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	億劫で入りたがらない方もおられますが、声掛けの工夫や個々のタイミングを見ながら、入りたい時に入って頂いている。	利用者が入りたいと思った時にいつでも入れることを入浴の基本としている。介助が必要でない方は夜に入浴する場合もあるが、大体は週2、3回午後が多く、入浴時間は10分から1時間とばらつきはあるものの、パターンはほぼ定まっており、介助の見通しもつき、利用者の希望に沿った入浴ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人なりに疲れた時には、部屋やソファで休まれる方もいる。お手伝いが必要な方には、個々の状態を見ながら、声を掛けさせて頂き、休まれる方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てを理解は出来ていないが、どのような薬を飲まれているかは把握している。薬の変更があった場合に体調に変化が見られた際は、先生や薬剤師に相談助言を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の希望に添いながら、料理や洗濯など日常生活の中で、出来る事をされている。個々に歌やゲームをされ楽しまれている方もいる。又、散歩やドライブへお誘いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍も遠くへは行けていないが、ホーム周辺の散歩や畑仕事をされる方もいる。家に帰りた強い時には、ご家族さんに協力してもらい、一時帰宅される方もいる。又、、家族さんと受診された際には、ドライブをされる方もいる。	職員と一緒に近くを散歩したり、ホームの菜園でトマトやキュウリなどの栽培をしたりしている利用者がいるほか、近場のドライブは利用者の希望もあり頻繁に出かけている。桜や紅葉の時期には、ユニットごとに総出でドライブに出かけており、花見は四十四田ダムや高松の池などで、紅葉狩りは松尾まで出かけて四季の変化を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば、ご家族さんと話しながらか持たれる方もいる。コロナ化で行けない時期もあったが、現在は、利用者さんが欲しい物を買に行かされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	手紙のやり取りはないが、ご自分で携帯を持たれ掛られている方もいる。電話されたい時は、好きな時にかけて頂いている。又、ご家族さんから、ホームへ用事があった際には、利用者さんとお話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にそった花や飾り物を一緒に作られたり、季節の食べ物を提供している。利用者さんの状況に合わせてながら、ご本人の過ごしたい場所で生活されている。	ホールの壁には利用者の写真や作品が飾られている。玄関前にソファを置いており、一人で外を眺めながらゆったりしている方もいるなど、利用者は思い思いに自分の時間を過ごしている。共用スペースの壁には利用者の写真や作品が飾られているほか、近くの小学校の子ども達が作った寄せ書きなども飾られており、利用者の心を和ませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人なりに落ち着く場所があり、おのおの自由に生活されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の馴染みの物、タンスや写真、仏壇を持って来られている方もいる。在宅で床で休まれている方もおり、ベットを使用されない方もいる。	全棟床暖房になっているほか、各居室にはエアコンが設置されており、快適な環境が確保されている。ベッド、クローゼット、小箆筒は備え付けだが、馴染んだ自宅のクローゼットを持ち込んでいる方や、仏壇、位牌、冷蔵庫、テレビの持ち込みのほか、家族の希望でトレーニング自転車を持ち込んでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所が分からない方もいますので、トイレ、お風呂場に貼り紙を貼らせて頂いている。部屋が分からない方には名前を付け、歩行が不安定な方には、自立できるよう手すりを設置し環境作りを行っている。		